

1. 略歴

1985年3月	東京大学文学部中国哲学専修課程卒業（文学士）
1987年3月	同 大学院人文科学研究科修士課程修了（中国哲学）
1987年4月	東京大学東洋文化研究所助手（東アジア第一部門）
1992年4月	徳島大学総合科学部講師（総合科学科）
1994年4月	同 助教授（人間社会学科）
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授（中国思想文化学）
2007年4月	同 准教授（中国思想文化学）
2013年4月	同 教授（中国思想文化学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国思想文化史、王権理論の展開および儒教の教化論

b 研究課題

- (1) 中国における朱子学・陽明学の思想的形成と社会的展開。
- (2) 中国皇帝制秩序を支える王権儀礼とその理論。
- (3) 日本における儒教思想の流入とその社会的効果。

c 概要と自己評価

概要：これまで十年来、上記研究課題に沿って研究を進め、著書・論文を通じてその成果を公表してきた。また、いくつかの共同研究に参加して隣接諸分野の研究者と交流を深め、視野を広げるとともに他領域の研究成果を自分の研究に活かしてきた。2005年度以来進めてきた共同研究の成果を取りまとめた「東アジア海域叢書」全20巻および「東アジア海域に漕ぎだす」全6巻の監修を担当し、それぞれ数巻を刊行した。

自己評価：2014～2015年度においても、研究が順調に進んで成果を着実にあげたとは言い難い。その理由として、一つは自分自身の関心が広がり、新たに先行研究を消化したり史料を読解分析したりすることが増え、従来からの問題に即してそれを深化させる速度が鈍った。二つめの理由としては、共同研究においてその取りまとめ作業に携わり、自身の研究に十分な労力をかけなかった。三つめに、私的な関心事象にかまけて公務以外の研究時間をきちんと確保しなかったことがあげられる。専門分野における学術的な論文執筆よりも、学界が共有する研究成果の社会還元に資するような活動（講演・解説文・一般雑誌連載など）のほうに重点を置いて活動した2年間であった。とはいえ、依頼されて論集に寄稿した結果、14点の論文を公刊することができ、また、旧著を文庫本の形で再び上梓することができた。ようやく、自身の初発の関心対象であった王安石研究に立ち戻り、その歩を進めることができた2年間であった。

d 主要業績

(1) 著書

単著、小島毅、『増補 靖国史観』、筑摩書房、2014.7

(2) 論文

小島毅、「王守仁—いくさを嫌った名将」、『アジア遊学』、173、2014.4

小島毅、「宋代における経学と政治」、『学問のかたち—もう一つの中国思想史』（汲古書院）、pp.127-148、2014.7

小島毅、「東北アジアという交流圏—王権論の視角から」、『境界と交流』（人文知3、東京大学出版会）、pp.93-108、2014.9

小島毅、「思想、宗教の伝播と変容」、北岡伸一・歩平編『「日中歴史共同研究」報告書 1 古代・中近世篇』、勉誠出版、227-256頁、2014.10

小島毅、「訓読の歴史的変遷をどう教えたらいいか—漢文と日本史の関連から」、『新しい漢字漢文教育』、59、9-19頁、2014.11

小島毅、「襲原『周易新講義』について」、『東方学』、129輯、pp.1-14、2015.1

小島毅、「夢窓疎石私論—怨親差別を超えて」、『文化交流研究』、28、pp.71-82、2015.3

小島毅、「思想史から見た宋代近世論」、渡邊義浩編『中国史の時代区分の現在』、汲古書院、369-376頁、2015.8

小島毅、「家康公と論語」、『大日光』、85、4-13頁、2015.8

小島毅、「宋学の尊王攘夷思想とその日本への影響」、『二松学舎大学人文論叢』、95輯、23-33頁、2015.10

小島毅、「日本の朱子学・陽明学受容」、『東洋学術研究』、54-2、248-267頁、2015.11

小島毅、「正気歌の思想——文天祥と藤田東湖——」、伊東貴之編『心身／身心と環境の哲学—東アジアの伝統思想を媒介に考える—』、汲古書院、537-549 頁、2016.2

小島毅、「東アジアの視点からみた靖国神社」、『高校地歴（徳島県高等学校教育研究会地歴学会）』、52、5-25 頁、2016.2

小島毅、「『論語』の解釈変更——古注から新注へ——」、『文化交流研究』、29、73-87 頁、2016.3

(3) 書評

吉田公平、『日本近世の心学思想』、研文出版、『日本歴史』、794、2014.7

(4) 解説

小島毅、「交流史」、『新編 森克己著作集』、5、442-451 頁、2015.8

(5) 啓蒙

小島毅、「解説」、玖村敏雄『吉田松陰』、文春学芸ライブラリー、397-407 頁、2014.12

小島毅、「文学部の覚醒」、『日本古書通信』、1033 号、3-4 頁、2015.8

小島毅、「遣明使と陽明学」、村井章介・橋本雄他編『日明関係史研究入門——アジアのなかの遣明船』、勉誠出版、370-374 頁、2015.10

(6) 予稿・会議録

国内会議、小島毅、「時代区分論からみた「平泉文化」」、「平泉の文化遺産」の拡張登録に係る研究集会、奥州市役所 江刺総合支所、2015.11.14

『アジアにおける平泉文化』、2015.11

(7) 監修

小島毅、『海がはぐぐむ日本文化（東京大学出版会、シリーズ東アジア海域に漕ぎだす6）』、2014.4

小島毅、『訓読から見なおす東アジア（東京大学出版会、シリーズ東アジア海域に漕ぎだす5）』、2014.6

(8) マスコミ

「打倒頼朝! “貴族” 義経の野心～武士の世を生んだ兄弟対決～」、『英雄たちの選択』、NHK、2014.12.18

「松陰の「行動」への賛美 実は危うい」、朝日新聞 15、2015.3.19

「徹底討論「靖国神社」」、『ニコニコ生放送』、DWANGO Co., Ltd.、2015.8.15

「東アジアの架け橋 遣唐留学生・阿倍仲麻呂の実像」、『英雄たちの選択』、NHK、2015.11.11

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、清泉女子大学文学部、「漢文学講義」、2012.4～

非常勤講師、埼玉大学教養学部、「漢字文化圏比較論」、2014.4～2014.9

非常勤講師、立正大学法学部、「アジア思想史」、2015.4～

特別講演、創価大学東洋哲学研究所、「日本の朱子学・陽明学受容」、2015.5

特別講演、徳島県立小松島高等学校、「東アジアの視点からみた靖国神社」、2015.8

特別講演、創価大学東洋哲学研究所、「朱子学の理気論・心性論」、2015.11

(2) 学会

国内、日本中国学会、副理事長、2015.4～